

Monthly Report

Vol.65 / 2011 Sep.

東北の子供たちに、たくさんの笑顔を
「東北こども博」 10月8(土)、9日(日)開催



東北のこどもたちの健やかな成長と笑顔の広がりを願い、それを実現するためのイベント「2011東北こども博」を10月8日(土)、9日(日)に、宮城県柴田郡柴田町の仙台大学キャンパスにて開催します。

主催は仙台大学、(社)日本玩具協会、宮城県柴田郡柴田町などで構成される東北こども博実行委員会(実行委員長: 朴澤泰治学長)。当日は、様々なおもちゃで遊べたり、スポーツを体験できたり、キャラクターショーで楽しめたりと盛りだくさんのイベントになります。

会場には、石巻市をはじめ東日本大震災の被害が大きかった宮城県、福島県、岩手県からこどもたちを招待し、秋の1日を体いっぱい楽しんでもらう計画となっています。

2011東北こども博 公式ホームページ <http://www.toys.or.jp/tohoku/>

目次

| | |
|---------------------------------|---|
| 「2011東北こども博」開催 | 1 |
| 管理栄養士国家資格 国際スポーツ情報ファルス | 2 |
| 節電 目標達成 明成高校教育懇談会 | 3 |
| 就活キックオフセミナー | 4 |
| もう一度 自在に身体を動か したい ~ 足漕ぎ車椅子 ~ | 5 |
| 高橋雄太さん、オマーン・ス ルタン国に | 6 |
| 桜美林大学大学院アメリカ 研修に参加して | 7 |
| 学生の活躍 | 8 |

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございまし
たら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

過去最多の10名が合格 ～管理栄養士国家試験～

本学の運動栄養学科は厚生労働省の栄養士養成施設の指定を受けており、所定の科目を履修・修得することで栄養士免許を取得できます。また、卒業後に厚生労働省が指定する施設において1年以上の栄養指導に従事した場合は管理栄養士国家資格の受験資格が得られます。

管理栄養士国家試験は3月20日に開催されましたが、東日本大震災の影響により受験できなかった東北地方の受験生のために7月末に追加試験が行われ、見事、新助手2名を含む7名のOBが合格を果たしました。3月の試験で既に合格している3名を含む10名の合格者は本学では過去最多で、合格率も非常に高いものです。運動栄養学科卒業生たちの努力の結果といえます。

合格した平良拓也さん



4月から非常勤で専門学校で栄養学の授業を担当しており、学生への解説のために栄養について深く勉強することができたのが合格に結びついたと実感しています。管理栄養士国家資格を取得しておくことで就職の幅が広がるので、研究の道に進めるよう就職活動を進めていきたいです。

<合格者>

平成20年度卒

たけうち せいこ

・竹内 晴子さん

仙台大学新助手

たいら たくや

・平良 拓也さん

仙台大学研究生

つ だか よ こ

・津田 佳代子さん

ひらさわ かずき

・平澤 和樹さん

いずみかわ たかひこ

・泉川 尚彦さん

こんの さき

・今野 早紀さん

平成21年度卒

はっとり えみこ

・服部 恵未子さん

仙台大学新助手

いわぶち あゆみ

・岩淵 安祐美さん

さわだ はなこ

・澤田 花子さん

わたなべ しょうこ

・渡邊 祥子さん

第4回 国際スポーツ情報カンファレンス開催



仙台大学主催、宮城県・仙台市・柴田町後援の「第4回国際スポーツ情報カンファレンス」は9月11日（日）、仙台大学を会場に開催されました。「大震災 スポーツの明日を考える」をメインテーマに、全国のスポーツ関係者や学生ら約80人が参加し、実り多いカンファレンスとなりました。

カンファレンスでは、震災後の被災地に対するスポーツ界の取り組みや現状について、日本オリ

ンピック委員会事務局長 平 眞 氏からの情報提供を皮切りに、メディアの視点、競技団体の視点、そして被災地の子どもたちと向き合う教育現場の視点から「震災」と「スポーツ」について示唆にとんだセッションが繰り広げられ、参加者全員で「スポーツの明日」を考えました。大震災発生の日午後2時46分には全員で黙祷し、亡くなられた方々に哀悼の意を表しました。

また今回はカンファレンスの一環として、被災地などの子どもたちを招待しての「あしたひろば」を併催。宮城県、岩手県、山形県、石川県からの参加もあり、子どもたちが思いっきり体を動かし、ボールゲームやアドベンチャーゲームなどに取り組み、交流する機会となりました。



<スポーツ情報マスメディア研究所>

節電目標達成 ご協力ありがとうございました

今夏は東日本大震災による電力不足のため、東北地区においては各家族・事業所に対して一律15%の節電が課せられました。さらに大学に対しては大口使用者として電気事業法による使用規制が課せられました。

本学でも学生・教職員のご協力のもと15%節電を達成すべく、エアコンの28℃設定や照明の間引き、職員による見回り等を行いました。結果、本学の最大使用電力許容量であった765kwを大幅に下回る647kw（7月12日）で、昨年の900kwを大きく下回りました。

冷房の設定を28℃に設定したにもかかわらず、講義中に熱中症になった学生数が増えることもありませんでした。これは、各々の自己管理の徹底が節電の目標達成に大きく関与したことは間違いありません。学生・教職員の皆様、ご協力ありがとうございました。

そして、今後も無駄な電力の排除は日頃から心がけていきましょう。



明成高校大河原地区教育懇談会



9月28日（水）にA棟大会議室において明成高校の大河原地区教育懇談会が行われ、県南地区に所在する16の中学校の校長先生にご出席いただきました。明成高校の教員と共に本学からも朴澤学長はじめ校長職の経験をお持ちの諸先生方が出席しました。

朴澤学長の挨拶では、明成高校から仙台大学に進学した後、社会人として活躍している同窓生の紹介として、管理栄養士国家資格を合格した2名の紹介があり、調理科から運動栄養学科という進路の魅力などを説明されました。

明成高校父母教師会が来訪



9月16日（金）に明成高校父母教師会の18名が来訪し、佐々木局長及び庶務課が対応を行いました。はじめにKMCH大会議室を会場に仙台大学の概要が佐々木局長より説明されました。主に教育方針や入試についての概要が話され、途中で質問が出るなど、父母会の方たちは真剣に聞いていました。その後、第5体育館をはじめとする本学の主たる施設を回り、見学していただきました。同法人である明成高校からは毎年多くの生徒が進学しております。本学を良く知っていただき、優秀な生徒がに入学していただく好機となれば幸いです。

就職活動キックオフセミナー



9月22日（木）にB300教室において創職作業チーム主催する「就職活動キックオフセミナー」が開催され、就職活動をスタートさせる3年生が出席しました。はじめに創職作業チームリーダーの齋藤博教授より就職活動における心構えについて話が

ありました。その後、キャリアデベロップメントアドバイザー（CDA）でもある佐々木事務局長より、就職活動に取り組む姿勢と準備について話がなされ、早めに就職活動をはじめることが何よりも重要であるという説明がなされました。

その後、上野法律ビジネス専門学校の担当者よりSPI模試並びに解説がなされ、学生達はこれからスタートする就職活動への意識を高めていました。



明成高校学園祭に仙台大学ブース設置



9月2、3日に明成高校学園祭が行われ、生徒たちが趣向を凝らしたイベントやショー、模擬店など盛りだくさんの内容で大盛況でした。そんな中、図書館では法人事務局が本学紹介コーナーを設置くださり、今年度の入学式で放映した大学紹介映像や、大学案内・広報誌などの冊子が展示されました。



エルジーヤンキースHIROさんより道衣など寄贈



前列は道衣、左はタオル、右はCDを持って撮影

仙台市を拠点に活動する人気ヒップホップユニット「L G Yankees（エルジーヤンキース）」のHIROさんが9月19日（月）に本学を訪れ、柔道部員に対して柔道衣などを寄贈くださいました。これは、東日本大震災直後に大学近隣の商店の片付けなど、積極的にボランティア活動した柔道部員の活躍がミヤギテレビ「OH! パンデス（放送：7/5）」で取り上げられ、この放送を観たHIROさんから「是非、柔道部に道衣を送りたい」との申し出があり、実現したものです。

道衣の他に「L G Yankees」のタオルとCDも頂き、学生たちは大喜びでした。大切に使用させていただきます。

全ては「もう一度自在に身体を動かしたい患者さん、子供たち」のために ～足漕ぎ車椅子～

関矢准教授が東北大学大学院医学系研究科で研究を行った足漕ぎ車椅子を紹介します。

この足漕ぎ車椅子は、脳卒中やパーキンソン病によって主に片麻痺で歩行が困難になった方の「もう一度自分の足で歩きたい」というおもいを、実現するために開発された車椅子です。

足漕ぎ車椅子は身体の状態によりますが、片足が動く人であれば、平均的な一般成人の歩行速度と同等のスピードで移動することができます。また、エレベーターの中でも自在に回転できるほど小回りに優れているため、補助者がいなくとも一人で自由に動きまわることができます。更に優れた点としては、足漕ぎ車椅子で移動すること自体がリハビリの効果を生み出す点にあります。片麻痺の方は、脳からの指令が手足の末端に届かないため、動かせない部分が循環不全、筋力低下や関節が固まるなどの二次的な要因が出てきてしまいます。しかし、この足漕ぎ車椅子を使うと動かない方の足も連動して動くため、これらの要素が解消されます。更に、動かない足を動かすことで脳血流量の増加や麻痺側の筋肉が反応することもわかってきています。つまり、この車椅子を使用すれば、歩行困難な方が、もう一度自分の足で移動することができる。リハビリしながら本来の自分の機能の回復が見込める画期的な車椅子といえます。

既に「足漕ぎ車椅子療法」として厚生労働省で認定され、介護保険の認定も受けることができます。海外ではデンマーク、オーストリア、カナダ、台湾等で特に賞賛の声を頂いており、多くの病院が取り入れているそうです。

関矢准教授は今後更に改良を重ね、在宅や教育現場で使えるマシンへ活用の幅を広げていきたいそうです。熱い思いの背景には「支援学校では自立訓練が行われているが、子供たちにとって決してリハビリは楽しい時間ではありません。足漕ぎ車椅子を使えば楽しんでできることでしょ。」と話されます。

足漕ぎ車椅子はオープンキャンパスで体験会を実施し、高校生にも乗車してもらいました。10



月8、9日の「2011東北こども博」でも健康福祉学科の出展として披露される予定です。また、ベガルタ仙台と提携して、ホームゲームでベガルタ仙台が勝利すると1勝するごとに1台寄付される提携をしたそうで、既に西多賀支援学校、船岡支援学校に寄贈され、活躍しているとのことです。

学内で足漕ぎ車椅子を使用している管理課の丸谷課長も「片麻痺の人は、一人で自由に動けないことが最大のストレスになります。この車椅子を使えば一人で移動することができるうえに、移動するスピードも早いので、たいへん重宝しています。片麻痺の人は手漕ぎ車椅子に乗ると左右の力のバランスが違うために一方向に曲がってしまい真っ直ぐ進めません。また、電動の車椅子では筋力が低下してしまう一方で、リハビリも兼ねられる足漕ぎ車椅子はある程度のスピードも出るし、ハンドル操作も簡単で小回りが利く点は素晴らしい」と絶賛されています。



剣道部の高橋 雄太さん、オマーン・スルタン国サマー・スポーツフェスティバルに参加



高橋さんは後列右から2番目

7月18～29日の12日間、高橋 雄太さん（名取市閉上出身・健康福祉学科2年）が、2012年で日本との国交40周年となるオマーン・スルタン国から被災地支援として招待を受けました。宮城からは仙台大の高橋さんのほか、東北大から1名、宮城学院大から1名の大学生、宮城(石巻)・福島の高校生3名の計6名が「オマーン・サマースポーツフェスティバル」に参加しました。今回本学からの派遣となったのは、剣道部顧問の斎藤浩二先生を通じ派遣要請があり実現したものです。6人は3.11東日本大震災で家屋が流失したり福島原発の避難区域に居住していたりと今回の震災で被災した経験を共有する生徒や学生たちです。

震災当日、高橋さんは名取市閉上の自宅に祖父母と3人でいたそうです。津波警報発令後急いで足腰の弱い祖父母を、とっさの判断で通りがかりの車に乗せ、それから自分も避難したそうです。海岸沿いの閉上地区は津波により壊滅的な被害を受けました。現在は両親含め一家で仙台市に住所を移しているそうです。

オマーン国からは、彼らが楽しめるようにとスポーツ交流をはじめ全行程を通じオマーン国政府の要人からの温かいもてなしを受けました。高橋さんは中学時代、名取市の姉妹都市交流で豪州へ青少年交流派遣の経験もあり、海外への渡航は初めてではなかったものの中東への渡航経験はなく最初はやや不安もあったとか。オマーン政府との連携で、このようにこまやかな配慮の元で沢山のアクティビティを楽しみ、かけがえない経験となったそうです。

高橋 雄太さん（健康福祉学科2年）

今回の派遣でオマーン政府のお世話になった方々それぞれに、「大丈夫か?」「家族は無事か?」と温かい言葉をかけていただきました。震災後初めての楽しい思い出でもあり、本当にすばらしい経験をさせていただきました。震災では辛いこと、なくしたものの山ありましたが、いつまでも引きずらず、今は前向きに生活していきたいと思っています。現在は保健体育科教諭と、特別支援教諭それぞれの教職科目を取得し、教員をめざしている高橋さんです。震災の辛い経験を大きな糧とし目標の現役合格に向けて力強く邁進していくことと思います。

～高橋さんの手記から…主な行程表～

7月18日(月)成田(エチハド航空7便)アブダビ経由マスカット空港へ

7月19日(火)

11:50 マスカット空港へ到着。フムード氏(法務省)、フメイド氏、マルク氏(ともにスポーツ省)と運転手ハムード氏に出迎えた。交替で我々をフルアテンドしてくださった。前記3氏は青年の船で日本に滞在経験がある大の日本びきの青年たち

13:00 City Season Hotel到着(5スターホテル)に宿泊

7月20日(水)

15:30 アル・ホタ・ケーブ(鍾乳洞)見学、キャンプ場へ到着

19:00 Summer of Sportsの集會に参加

19:30 屋外でアラビア式夕食後、ニズワスポーツコンプレックス内に宿泊

7月21日(木)

10:00 ワジバニ(山麓の村)の古民家、農園、大渓谷等見物

16:00 4kmのマラソン大会。200名位が参加

我々も日本チームとして6名参加。2000mの高地の初マラソンだったが、全員完走

17:00 綱引き大会。4チームトーナメント戦。日本チームあえなく初戦で敗退

7月22日(金)

16:00 クルムビーチで海水浴

20:00～23:00 日本人会有志による東京大呂(日本食料理店)での歓迎会。オマーン在8人の日本人が参加

7月23日(土) ルネッサンスデー。祝日となる。

08:00 スペール博物館、王宮、オールドマスカット見学

17:00 オマーンの若者とウッドボール、サッカー後野外パーティー

7月24日(日)

12:00 オマーン国スポーツ省にてラシッド次官と面談

17:00 スルタンスポーツコンプレックス到着後、スネイディ大臣と面談。その後オマーンチームとサッカーをし、バドミントン、水泳など楽しむ。

7月25日(月)

08:00 ナハール城見学、驢馬に騎乗。

20:00～21:30 外交官クラブにて外務省ザラフィ次官(前駐日大使)主催の晩餐會に招待される。クサイビ米州局長(前々駐日大使)も同席。

7月27日(水)

08:00 グランドモスク見学。

19:30～21:30 休暇から一時帰国のムスラヒ大使私邸に夕食に招かれる。

7月28日(木)

08:00 カンタブビーチでボートを借りクルーズ。クルーズ先で水泳を楽しむ。

13:00～16:00 City Center Hallにてショッピング。

19:00～21:30 森元大使公邸に夕食に招かれる。

7月28日(金)

10:50 マスカット空港からアブダビ空港へ

13:35 EY無料リムジンでドバイへ。昼食後ショッピング組と市内見学組に。

18:25 EYリムジンでドバイよりアブダビへ。



ナハール城

地元新聞にも掲載

2011年 桜美林大学大学院アメリカ研修に参加して 8/25(木)～9/2(金)



ザビエル大学のトーマス先生と船戸ゼミ一行

本学では、桜美林大学大学院大学アドミニストレーション専攻修士課程（通信課程）に事務職員を派遣し、資質向上を図っています。本学からの派遣職員が多く所属する船戸高樹教授のゼミでは毎年アメリカ研修が実施され、今年度の研修には全国からの船戸ゼミ修了生・現役生合わせて18名が参加し、本学から朴澤学長、修了生の入試創職室・杉本、現役生の庶務課・薊の3名がアメリカの高等教育機関の現状を学んできました。

今年度はAGB（Association of Governing Boards - 大学理事会協会）、UE（United Educators - 学校のみを対象とした保険会社）、Xavier Universityを訪問しました。

最初はワシントンD.C.にて、1230以上の大学理事会に対しアドバイスやコンサルティングを行っているAGBのDr. Susan Johnston氏から、経済の後退に伴い大学への補助金も減退していることや営利型大学の台頭、進学層の変化などアメリカの大学が直面する問題と、大学を強くするための理事会の役割についてレクチャーを受けました。次に幼稚園から大学まで会員校が出資し運営している保険会社UEからは、大学でのリスク事例について聞きました。訴訟社会のアメリカでは、学内での怪我等に留まらず、就職試験の失敗原因を教員の推薦状に問われたり、カリキュラム履修がうまくできなかった場合やライセンススクールで資格が取得できなかった場合に「大学側の説明が悪い」と裁判を起こしたりする学生もいるということです。日本とは違い、大学のサービス項目はハンドブックに明記されその不履行がリスクにつながる、「契約」を重視した環境ではあるものの、大学と学生の役割を把握し、教職員もしっかりとした意識で対応する必要があると感じました。

その後はニューヨークを経由し、ニューロンドンのConnecticut Collegeでラーニング・アウトカムについて講義を受ける予定でしたが、ハリケーンのアイルーンがニューヨークを直撃したためニューロンドン行きは中止となり、二日間の足止めとなったワシントンでそれぞれ有意義な時間

を過ごしました。

二日後、まだハリケーンの影響で乗車予定だった電車は運行せず、バスで5時間をかけニューヨークへ移動、短時間ながらも同時多発テロから10年を迎えるニューヨークを各自堪能し、翌日オハイオ州のシンシナティへと飛行機にて出発しました。

シンシナティでは、雄大なオハイオ川を横目に市内北部にあるXAVIER UNIVERSITY（私立大学・学生数7,000名）へ向かいました。全米でも屈指の実力を誇るバスケットボールの専用アリーナはなんと1万人以上収容可能なほか、構内はほとんどここ2、3年新たに建てられた建物で、「私が留学をしていた12年前とは別世界（薊職員）」ということでした。卒業生による寄付文化が定着しており、各棟には個人名や企業名が掲げられています。



ジョージタウン大学

この大学では、二日間に渡り大学マーケティングが専門の

Ph.D. Thomas Hayes氏に『アメリカにおける大学のマーケティングの歴史と現状』と『マーケティングを成功させている大学のケース・スタディー』についてレクチャーを受けました。大学マーケティングにおいては変化の兆しを見極めることと、地域社会に貢献する卒業生を育てること、人材を育てるためには入学予定段階から在学中、卒業後まで温かくフレンドリーなサービスの充実が求められる点が3つの大きなポイントであるとの話を聞き、学内で働く教職員へのインターナルマーケティングも含めて教育現場でもリサーチとマーケティングが重要だと感じました。



ザビエル大学

ケース・スタディーでは、経営の危機に陥った大学がマーケティングや特色を打ち出すことで立ち直った事例を聞くことができました。本学も地方を拠点とする私立大学であり、今後一層の18歳人口減少や震災の影響といった外的リスクにも囲まれ、存続が危ぶまれる時が来ないとは言えません。社会の高い期待に応えられる大学となるためには、大学全体で意識を共有しマーケティングに取り組む必要があるのではないのでしょうか。

研修では、普段日本では知ることのできない生の情報を得ることができました。今後はこの貴重な経験を日々の実務において大学へフィードバックしていきたいと思えます。

<入試創職室 杉本、庶務課 薊>

審判として一流選手と同じフィールド上に

8月31日(水)にACミラン(イタリアセリエA)とJリーグで活躍した往年の名選手がユアテックススタジアム仙台に集い、「日伊レジェンドマッチ(主催:宮城県サッカー協会など)」が行われました。これは東日本大震災の復興支援の一環として行われたもので、試合の収益は全て被災地のサッカー復興支援に充てられます。本学臨時職員の伊勢裕介さんやOBの平間亮さん(平成19年度卒)が審判というかたちで復興支援事業の一役を担いました。

臨時職員の伊勢裕介さん(平成22年度卒)

今回、会場を沸かせた往年の名選手たちは私が3、4才の頃に活躍した人ばかりなので知らない選手も多くいましたが、審判というかたちで震災復興に携わり、少しでも力になれて良かったです。

私はJリーグや国際試合をジャッジする一級ライセンス審判になることを目指しています。審判を



目指すのは日本のトップ選手が集うフィールドに立ちたいという思いがあるからです。勿論、はじめは選手としてその場を目指していましたが、大学2年の時にそれが叶わないことに気づき、別の形でフィールドを目指すことを決意しました。そこで私が選択したのが審判でした。本学の多くの学生も指導者を目指しています。しかし、指導者は試合中にフィールドの中に立つことはできません。一方で主審はフィールド内でプレイヤーと共に走り回り、試合の統制という重要な役割を担います。このことが審判を目指す大きな魅力となっています。

私は現在、2級ライセンスを取得しており、社会人の試合やJリーグの練習試合などの審判を行っています。この一級ライセンスは誰もが受験できるものではなく、東北では毎年4人しか受験することができない敷居の高い資格です。今回、私は東北の審判委員会から強化指定を受けたので、受験するチャンスでできました。審判という道が学生の進路の選択肢として示していけるよう頑張るとともに、一流選手と同じフィールドで試合を創っていきたいです。

体操競技部インカレ



8月29 - 31日に和歌山ビッグホールで行われた体操の全日本大学選手権大会(インカレ)は団体戦4位、個人戦でも下田悠太さん(体育学科4年)が6位に入りました。種目別跳馬では宗像陸さん(体育学科4年)が跳馬で2位、山本収一さん(運動栄養学科3年)が3位、種目別つり輪では佐藤亘さん(体育学

科4年)が3位となりました。また、昨年2部リーグに降格した女子は、団体戦で2位となり1部リーグに返り咲きました。

[男子1部]

| | | |
|-------|-----|---------------|
| 団体戦 | 4位 | |
| 個人総合 | 6位 | 下田 悠太(体育学科4年) |
| | 13位 | 宗像 陸(体育学科4年) |
| | 15位 | 石原 大(体育学科4年) |
| | 17位 | 柴田 恭佑(体育学科4年) |
| 個人種目別 | | |
| 跳馬 | 2位 | 宗像 陸(体育学科4年) |
| | 3位 | 山本 収一(運動栄養3年) |
| つり輪 | 3位 | 佐藤 亘(体育学科4年) |

[女子2部]

| | | |
|------|-----|---------------|
| 団体戦 | 2位 | |
| 個人総合 | 9位 | 橋 あすか(運動栄養1年) |
| | 11位 | 浅見 真希(運動栄養4年) |
| | 14位 | 千葉ありさ(運動栄養1年) |

全日本プッシュスケルトン選手権大会



9月24日（土）に長野県スパイラルを会場に全日本プッシュスケルトン選手権大会が行われ、ボブスレー・リュージュ・スケルトン（B・L・S）部員や「伊達なSPORT PROJECT」の高校生3名が参加しました。この大会は今シーズンのワールドカップやアメリカズカップを遠征する日本代表選手の選考会になっており、日本のトップ選手が顔をそろえました。

そんな中、女子は新助手の小室希さん(平成19年度体育学科卒、22年9月大学院修了)が2連覇を果たし、大向貴子さん(平成18年度運動栄養学科卒)が準優勝、小林真衣さん(体育学科2年)が3位に入り、表彰台を本学関係者が独占しました。男子は本学OBの笹原友希さん(平成18年度運動栄養学科卒)がバンクーバーオリンピック男子代表の田山真輔選手（㈱システックス）を制して初優勝を果たし、松本紳司さん（体育学科4年）が3位入賞しました。

「伊達なSPORT PROJECT」の選手も、入賞には届かなかったものの全員が自己ベスト記録を更新

しました。3選手は今後、プロジェクト最大の目標であるユースオリンピック出場を果たすために、11月5日からアメリカとカナダで行われる予選会に挑みます。ここでアジア・オセアニア地区でランキングの上位3名以内に入らなければユースオリンピックの道はついでてしまいます。今大会で明らかとなった各々の課題を修正し、是非出場権を勝ち取ってもらいたいです。



全日本プッシュスケルトン選手権大会

本学関係者の主な結果

【男子】

- 優勝 笹原友希さん
(平成18年度卒 / 安曇農園浅川)
- 第3位 松本紳司さん(体育学科4年)
- 第4位 近藤圭佑さん
(平成19年度卒 / 埼玉大学研究生)
- 第7位 谷藤祐貴さん(体育学科4年)
- 第17位 野倉大貴さん
(伊達なSPORT PROJECT / 柴田高校2年)
- 第21位 佐藤 弾さん
(伊達なSPORT PROJECT / 柴田高校2年)

【女子】

- 優勝 小室希さん (仙台大学新助手)
- 第2位 大向貴子さん (平成18年度卒 / 長野市役所)
- 第3位 小林真衣さん (体育学科2年)
- 第4位 米倉理絵さん (運動栄養学科3年)
- 第6位 明石七海さん (体育学科3年)
- 第8位 安藤早紀さん
(伊達なSPORT PROJECT / 柴田高校2年)

ボート全日本選手権

9月15 - 18日にボートの第89回全日本選手権が戸田漕艇場において開催されました。この大会は、全国から社会人強豪クルーが集う、国内最高レベルの大会です。本学漕艇部も8月末に行なわれたインカレから3週間というタイトなスケジュールでしたが、順調に調整を進め、結果を残しました。

- 男子舵手なしフォア 第2位
- 男子舵手つきフォア 第2位
- 女子 舵手つきクォドルプル 第4位



男子バレーボール部 国体・天皇杯へ



バレーボールの全日本バレーボール選手権大会 天皇杯の東北ブロックラウンドは9月10、11日に山形県体育館を会場に行われ、各県の代表6チームに高校・大学・社会人リーグの各カテゴリーを制した3チームを加えた全9チームで全国大会出場の1枠を懸けた熱戦が繰り広げられました。本学は東北地区大学リーグの代表としてAチームが出場し、宮城県代表としてBチームも出場しました。強豪チームが集まりましたが、決勝戦は本学のAチームとBチームの対戦で、本学の層の厚さをうかがい知ることができました。12月14～18日に東京体育館で開催されるファイナルラウンドに出場します。昨年は初出場ながら1回戦で関東大学リーグ1部の国際武道大学に勝利し、プレミアリーグのパナソニックとの対戦を果たしました。昨年よりもチーム力はあがっており、ファイナルラウンドでのベスト8入りに期待がかかります。

バレーボール部は8月26～28日に行われた「国民体育大会東北ブロック大会」でも、ベストメンバーが組めなかったにもかかわらず宮城県代表として本戦の出場権を獲得。同じく東北代表権を獲

得した秋田県代表でも本学部員がチームの中心を担っています。

バレーボール副キャプテンの 渡辺侑也さん(体育4年)



男子バレーボール部は着実にレベルアップし、選手の層も年々厚くなっています。これには部員の努力は当然ですが、多くの人たちの支えが大きいです。その一つは、トレーニンググループの加賀新助手のトレーニングです。加賀さん

さんが組んだトレーニングメニューを週3日こなしているの、垂直跳びも高く飛べるようになり、パワーも付いたと実感しています。体つきは他大学に負けていません。もう一つが栄養サポート研究会です。定期的な栄養指導に加え、試合の合間に出してくれる間食提供は、選手たちが少ない時間で栄養を摂ることができ、試合の活力となっています。最後に、学生トレーナーの川田諒さん(体育4年)の存在です。練習や大会に帯同してもらい、選手のケアを行ってもらえるので、選手が全力でプレーできています。これらのチームを支えてくれる体制が、自分たちの強みになっています。試合が続きますが、最大の目標はインカレでのベスト8なので、サポートしてくれる方々に報いるためにも1試合1試合を無駄にせず課題を見つけ、チームのレベルアップを図っていきたいです。